

拍手の中、出雲15位、全日本21位

3年ぶりの有観客開催



沿道からの応援を受け、懸命に走るアンカーの花井選手〔全日本大学駅伝〕



スタート地点の出雲大社の周囲に詰めかけた観客(左)。ゴールテープを切る中川選手(右)〔出雲駅伝〕

3年ぶりに有観客開催となった今年、10月10日の第34回出雲駅伝で本学駅伝競走部は15位、11月6日の秩父宮賜杯第54回全日本大学駅伝は21位でゴールした。いずれも目標順位に及ばず悔しい結果となったが、応援を力に変えて、全員が大舞台で走り切った。

出雲駅伝は「2枠」が取れる12位に35秒差

10月10日、朝から強風が吹き荒れる中スタートした出雲駅伝はペース配分の難しいレースとなった。6区間のうち、前回の経験者は2名とフレッシュな顔ぶれで臨んだ本学駅伝競走部は前半の出遅れを徐々に盛り返し、2時間18分

44秒の15位でゴール。来年の2枠が取れる12位に35秒差と惜しくも届かなかったものの、1区・2区の通算タイム、3区の通過記録は過去最高、6区の区間記録は31分20秒で皇学館新をマークした。

出雲駅伝

出雲大社前～出雲ドーム前
6区間●45.1km

区間距離	氏名 (学科・学年)	区間記録 区間順位	通過順位
1区 8.0km	毛利昂太 (国史2)	24分23秒 18位	18位
2区 5.8km	浦瀬 晃太郎 (現日2)	17分03秒 16位	18位
3区 8.5km	矢田大誠 (教育3)	25分46秒 16位	16位
4区 6.2km	見置蓮音 (現日2)	19分34秒 13位	17位
5区 6.4km	曾越大成 (教育2)	20分38秒 12位	16位
6区 10.2km	中川雄斗 (コミ2)	31分20秒 13位	15位

※赤字の区間記録は皇学館新

全日本大学駅伝

熱田神宮西門前～伊勢神宮内宮宇治橋前
8区間●106.8km

区間距離	氏名 (学科・学年)	区間記録 区間順位	通過順位
1区 9.5km	山田奏楽 (現日2)	28分32秒 25位	23位
2区 11.1km	毛利昂太 (国史2)	35分04秒 25位	23位
3区 11.9km	浦瀬 晃太郎 (現日2)	36分51秒 23位	23位
4区 11.8km	中川雄斗 (コミ2)	35分53秒 19位	22位
5区 12.4km	岩島昇汰 (国史2)	37分41秒 14位	20位
6区 12.8km	曾越大成 (教育2)	39分40秒 19位	20位
7区 17.6km	矢田大誠 (教育3)	57分28秒 25位	21位
8区 19.7km	花井秀輔 (現日4)	62分17秒 22位	21位

※赤字の区間記録は皇学館新

順位	大学名	総合記録
1位	駒澤大学	2:08:32
2位	國學院大学	2:09:24
3位	中央大学	2:09:48
4位	青山学院大学	2:10:18
5位	順天堂大学	2:10:50
6位	創価大学	2:10:52
7位	法政大学	2:11:54
8位	東京国際大学	2:11:59
9位	東洋大学	2:13:35
10位	関西学院大学	2:14:27
11位	帝京大学	2:15:40
12位	立命館大学	2:18:09
13位	環太平洋大学	2:18:13
14位	大阪経済大学	2:18:19
15位	皇学館大学	2:18:44
16位	北海道学連選抜	2:18:51
17位	関西大学	2:19:24
18位	第一工科大学	2:20:42
19位	北信越学連選抜	2:21:17
20位	東北学連選抜	2:26:09

順位	大学名	総合記録
1位	駒澤大学	5:06:47
2位	國學院大学	5:10:08
3位	青山学院大学	5:10:45
4位	順天堂大学	5:10:46
5位	創価大学	5:12:10
6位	早稲田大学	5:12:53
7位	中央大学	5:13:03
8位	東洋大学	5:13:10
9位	明治大学	5:15:29
10位	東海大学	5:16:01
11位	東京国際大学	5:16:41
12位	神奈川大学	5:17:30
13位	中央学院大学	5:17:56
14位	大東文化大学	5:19:07
15位	日本大学	5:22:54
16位	関西学院大学	5:25:53
17位	大阪経済大学	5:27:14
18位	立命館大学	5:28:00
19位	札幌学院大学	5:32:17
20位	愛知工業大学	5:32:42
21位	皇学館大学	5:33:26
22位	環太平洋大学	5:37:03
23位	第一工科大学	5:41:41
24位	新潟大学	5:43:18
25位	東北大学	5:53:01
	日本学連選抜	5:21:35
	東海学連選抜	5:31:50

日比勝俊監督は「誰ということなく、チーム全体で力を出し切れなかったことが課題。結果を真摯に受け止め、敗因を分析し、フィードバックし

「周囲のサポート、応援があるからこそ活動できていることを身に染みて感じた。その自覚をもって、精いっぱい戦っ

「チーム力」に課題。リベンジに向け、再始動

11月6日に開催された全日本大学駅伝は上位4チームが大会新を記録するハイレベルな戦いとなった。追い風というコンディションもあり、前半から速いペースで進んだ同大会。本学駅伝競走部は1、2、3区を23、25位で推移する中、第4中継地点で8秒足りず無念の繰上げスタート。それ

「力を出揮ってきた人、思う走りが出てきた人、個人的な思いは人それぞれ」としながら、「結論はチーム力が足りない。成長しなければいけないことがたくさんある。簡単ではないが一歩踏み出し、新しいチームを作っていきたい」と前向きに話した。そして、

全日本駅伝は粘るも高速化に対応できず

「力を出揮ってきた人、思う走りが出てきた人、個人的な思いは人それぞれ」としながら、「結論はチーム力が足りない。成長しなければいけないことがたくさんある。簡単ではないが一歩踏み出し、新しいチームを作っていきたい」と前向きに話した。そして、



第93号
令和4年12月



■注目記事

- 2面 令和4年度内定状況(中間報告) 449名が内定(内定率66.7%)
- 3面 アカデミック 新設・統合・名称変更 新生19コースが令和5年度にスタート
- 4面 地域連携 笠原ゼミCチームが最優秀賞! みえ学生ドライブスタンプラリーコンテスト2022
- 5面 カルチャー&スポーツ 大学硬式野球部が準V 第18回東海・北陸・愛知三連盟王座決定戦
- 6面 中高トピックス 家庭に感謝する日の行事 ほか
- 7面 【学園祭特集】3年ぶりの対面開催!
- 8面 アクティブスチューデント 走高跳・浅井琥桃さん(高1)がジュニアオリンピックカップUI6陸上大会で優勝 ほか



発行・編集 学校法人皇学館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学 | 大学院 | 文学部 | 教育学部 | 専攻科 | 現代日本社会学部

〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)




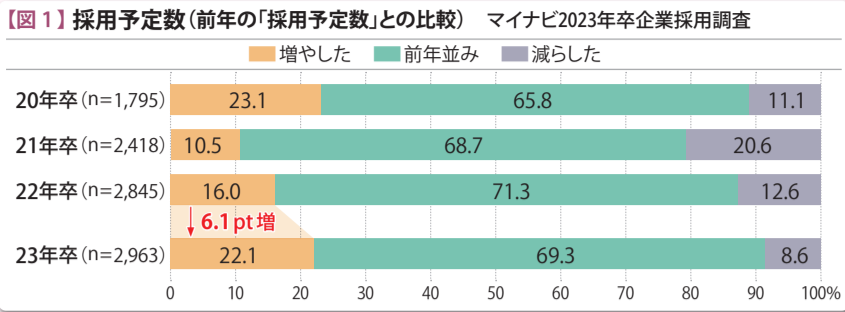
地方紙のこれまた地域版の記事だが、少し前の卒業生が若い和菓子職人として紹介されていた▼卒業後は、お笑い芸人を目指して上京したと聞いていたが、実際には映画制作を志していたらしい▼その後、お父さんが、いまわの際に代々続いてきた和菓子店を守り継いでほしいと言ひ遺されたのだという▼以来、一念発起。菓子作りの専門学校や老舗での修業を経て五代目として和菓子店を開いたことを伝える記事だった▼和菓子は、茶の湯によって洗練されたと考えられている。そして、その名付けは季節や風情を大切にしているように見える▼大田南畝の『話一元』巻一に天和三年(二六八三)の京菓子司・桔梗屋の菓子目目載せる。「ねざめ」「源氏あめ」「定家もち」「和歌のもと」「竜田もち」など日本の古典文学を思い起こさせるものがある▼例えば「竜田もち」は「ちはやぶる」神代もきかず 竜田川からくねるに 水くくるとは」という在原業平の歌による紅葉色の餅なのだろう▼国文学科での学びが和菓子づくりの場面で生かされていることはないか。今度、彼の店を訪ねて聞いてみたいものだ。

皇學館大学出版部
出版物のご案内
 皇學館大学出版部では学術図書・啓蒙図書・教科書・参考書の刊行を行っています。

「これ英語で何と言うの？」
身の回りのモノ・コト
英語小辞典
 豊住誠 著
 クリストファー・メイヨー 英語校閲
 定価 563円(税抜)

小学校にあるものや小学校で教える内容、小学生の身近にある事柄約3000項目を英語で示した。語源や文化的背景にも言及しており、英語に関する読み物としても最適。

ご注文の際は、大学ホームページからお申込みください。

【図2】内定先内訳(学部生のみ)

	神 社	企業・団体	医療・福祉	公務員	教 員 (小中高)	教員(幼) 保育士	計
R4.11.1	39	263	26	27	53	41	449
昨年同時期	45	237	15	21	71	28	417

令和4年度
内定状況
 (中間報告)
449名が内定
 内定率 **66.7%**
 (令和4年11月1日現在)

11月1日時点の就職内定率は66.7% (内定者数449名/就職希望者673名)と昨年同時期より6.0ポイント上昇した。
 コロナ禍での日常生活に慣れつつある中、新卒採用も3年目を迎え、企業の採用意欲は経済活動の回復とともに向上している。企業採用調査によると今

年度の採用予定数は「前年並み」が最多で69.3%、「増やした」は22.1%とコロナ禍前の水準に迫り、対前年比6.1ポイント増となった【図1】。
 内定率は高水準で進捗しており、複数内定を保有する学生の増加が今年の就職活動(23年卒)の特徴といえる。内定先内訳は【図2】参照。

一般企業
高い採用意欲

コロナ禍3年目で進行してきた23年卒者の就職戦線。企業の採用意欲に回復傾向が見られるなど、コロナ禍による混乱は落ち着いてきたように映る。
 11月1日現在の企業・団体内定者数は263名。23年卒の内定率は前年同時期を上回る水準で推移、複数内定保有者も増加した。今年も金融・保険関係26名、農業協同組合13名が内定を得ている。就職担当は学生一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援を行っていくので、未内定者も諦めず活動をしてほしい。

公務員
地元志向の高まりで
高倍率

コロナ禍の影響で安定志向・地元志向の学生は増え、現時点での公務員試験の倍率は依然高水準となっている。現時点での公務員合格者は27名で、三重県庁、鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市、志摩市、明和町、岩倉市、郡上市、警視庁、三重県警、茨城県警、京都府警、大阪府警、法務教官、自衛隊となっている。

コロナ禍の中、善戦

教職関係
三重県は128名が合格
11年連続トップ(既卒含む)

令和4年度教員採用試験(三重県公立学校)で本学は既卒を含め128名が合格を果たした。小学校では103名が合格し、三重県全体の合格者に占める本学の割合は38.2%と11年連続三重県トップ。三重県以外では18名が現役合格している。公立幼稚園は6市町で13名が合格し、2市町6名が結果待ち。

教職支援担当では4名の教職アドバイザーが中心となって1年生から個人面談および論文指導を行っている。早期から意識を高めるよう対策を講じている。試験直前期には、学部教員による実技特訓(ピアノ、器械運動、リスニング)を実施。教職希望者は長期戦であることを念頭にこれらの制度を早期から積極的に活用し、入念な準備をして試験に臨んでほしい。

神社関係
採用内定率は好調

昨年に引き続きコロナ禍の状況であったが、11月1日現在の求人状況は昨年同時期に比べ27社54名増の159社263名の求人をいただいている。神社奉職希望者に対する採用内定率は72.4%となっている。内訳は学部生39名・専攻科生10名・大学院生2名の51名(自家奉職者含む。昨年同時期59名)。
 神職養成担当では引き続き、未内定者の個別面談や面接指導を行い、神社関係への奉職希望者が全員採用内定できるよう努めていく。

令和4年度 保護者対象
就職講演会・説明会を開催
希望者には動画を配信

令和4年10月9日(日)に尊の会(保護者会)主催の「保護者対象就職講演会・説明会」を開催した。新型コロナウイルス感染防止のため事前予約制にて実施。会場には61名のご出席をいただき、オンデマンドでの視聴を希望された37名に後日配信した。
 「コロナ禍の就活事情と保護者のサポート」との題目で開かれた講演会では株式会社マイナビの田上潤平氏がコロナ禍による企業と学生の就職環境の大きな変化、就職状況の推移、コロナ禍での学生の動き、企業の選考方法の変化、企業の視点等、現在懸念されていることをピンポイントで解説し、最後に保護者が気を付けること、できるサポートをご確認いただいた。

- 就職活動期のご家族による支援**
1. 就職活動の厳しさを理解する
 2. 一番身近な者としての目線で長所や強みを伝える
 3. 経済的なサポートを
 4. 本人の意思を理解し尊重する
 5. 安心して帰ってこられる場所をつくる
- 保護者の感想**
- コロナ禍のため保護者対象の講演会に参加する機会がなく、今回大変参考になりました。資料を読み返し、子どもと共に考えていきたいです。
 - より明確にイメージして考えることができた。また、就職支援が手厚いことも感じられ、とても心強くありがたいと思いました。
 - 貴重なお話をありがとうございました。丁寧に指導していただいていると感じました。親から見て積極性に欠ける面がありますので、これからも個別での相談をよろしくお願ひいたします。
 - オンデマンド配信にいただき助かりました。

内定者ボイス
一般企業編

①4年間で注力したこと ②就職活動中に苦労したこと ③成功の秘訣 ④後輩へのアドバイス

水谷綾花(国文)
 【内定先】株式会社鈴鹿英数学院



①アルバイト。気遣いの大切さ、状況に応じて行動する力が身に着いた。
 ②メンタル面の維持。焦りや途中で気が抜けてしまったりタイムラグがあり、モチベーションを上げるのが大変だった。③とにかく心配性なのでインタビュレーションや説明会などすべての行動に早くから取り組んだ。辛いときは紙に書き出したり周囲に話して乗り切った。④自己分析の際、4年間で頑張ったことがスムーズに出てこなかった。2、3年生からいろいろなことに力を入れておくとよい。

花谷竜空(コミ)
 【内定先】リゾットラスト株式会社



①部活動(ダンス部)。イベント等がなくなりモチベーションを維持することが難しかったが、新たな目標を立て現状を打破した。②スケジュール管理。③周囲の就活状況を聞く。④面接の準備。面接の準備は、SNSなど極力見ないようにした。就職担当で何度も添削してもらい、納得のいく履歴書を完成させた。④ガイダンスに早めに参加して就活モードのスイッチを入れる。面接で得たことをメモに残し次に生かす。エグゼクティブの方の言葉は間違いがない。

久村奈穂実(現日)
 【内定先】日本赤十字社 三重県支部



①接客のアルバイトと講義や実習を通しての傾聴力・コミュニケーション技術の習得。②就活の進め方がまったくわからなかった。緊張しやすく面接に苦手意識があった。③就職担当で相談に乗ってもらったり合同企業説明会に参加して視野を広げた。面接では笑顔や相槌などの非言語コミュニケーションを大切に。④早い行動は後の自分を救う。面接は自身に関する質問が多いので、自己分析を早くしておくことより具体的に自分らしく話せる。



川上健太(国史)
 【内定先】西日本旅客鉄道株式会社

①陸上自衛隊で予備自衛官として活動する中で忍耐力や責任感を養った。
 ②複数の企業を受験するためスケジュール管理に苦労した。③スマホのカメラアプリ等を活用しながら行動計画を早期に準備した。会社が発信

山野綾香(教育)
 【内定先】住友電装株式会社

①部活動。就活で投げやりにならず最後まで続けられたのは部活動で身につけた忍耐力のおかげ。②初めてのWebテスト

Academic アカデミック

3年ぶりの「伊勢河崎一箱古本市」にふみくら倶楽部が参加



本学ふみくら倶楽部が実施協力する「伊勢河崎一箱古本市2022」が10月23日、3年ぶりに開催され、会場となった伊勢市「河崎川の駅」近くの勢田川沿いは多くの人で賑わった。一箱古本市は出店者が古本を持ち寄り、来場者と交流しながら販売を行うフリーマーケット。運営を手伝った島田朋葉さん(国文3)は「来場者の『この雰囲気、懐かしい』という言葉が強く印象に残った」と話し、出店者や新たな本との出会い、本を介した人との繋がりに温かい気持ちになったと振り返った。また、「次の開催はいつですか」「私も出店してみたいです」と声を掛けられそうで、「愛されているイベントであることを実感。開催できて本当によかった」と感慨深げに語った。

雑誌『CAPA』フォトコンテストで竹本紘子さん(高3)が一席・入賞、奥田春斗さん(高3)、竹内一葉さん(高3)が入賞

写真雑誌『CAPA』2022年10月号の月例フォトコンテスト学生部において皇學館高校写真部の竹本紘子さん(3年)が1席、奥田春斗さん(3年)が入選、同11月号で竹内一葉さん(3年)と前掲の竹本さんが入選を果たした。写真家の鶴巻育子さんは1席を受賞した竹本さんの作品「独り暮らし」を「暮らしぶりも画面内に写り込ませた画面構成が素晴らしい」と絶賛。奥田さんの「夜の隙間」は「偶然の多重露光と銀塩プリントならではの粒状状態によって不思議な世界が現れた」、竹内さんの「夏の日」は「宙に浮かんでいる虫かこの不自然さが面白く、右の影が大きな虫で、網を持った子どもに襲いかかっているようにも見えて想像が膨らみ、ワクワクする写真」と評した。同雑誌をはじめ、各コンテストで多くの受賞者を輩出している皇學館高校写真部。さらなる活躍に期待したい。



一席に輝いた竹本さんの作品「独り暮らし」



奥田さんの入選作品「夜の隙間」



竹内さんの入選作品「夏の日」

令和5年度カリキュラムにおける各学科のコース名称について

旧コース名称	新コース名称(予定)
神道学科	
神道学コース	神道・宗教文化コース
日本文化コース	
国文学科	
国語・国文学コース	国語学・国文学コース 国語教育コース(中高教員) 書道・漢文学コース 図書館司書コース
国語科教師コース	
国語科教師コース	
国史学科	
歴史教育コース	国史総合コース 歴史教育コース(中高教員) 歴史文化財コース
文化財コース	
コミュニケーション学科	
英語コミュニケーションコース	英語コミュニケーションコース 英語教育コース(中高教員) 心理学コース 情報コース
心理コース	
地域情報コース	
教育学科	
学校教育コース	初等教育コース 幼児教育コース 保健体育コース(中高教員) 数理教育コース(中高教員)
幼児教育コース	
スポーツ健康科学コース	
特別支援教育コース	
現代日本社会学科	
経営革新コース	経営革新コース 地域創生コース 福祉展開コース 文化発信コース
地域創生コース	
福祉展開コース	
文化発信コース	

社会状況がダイナミックに変化する中、本学では令和5年度開講に向けコースの新設・統合・名称変更を図った。これにより来年4月から3学部6学科19コースがスタート(左表)。学生の学びの環境をさらに進化・深化させ、地域・社会に有用な人材の育成をめざす。文理融合教育を進め、今まで多数の教員が輩出している本学では、令和5年4月より教育学科に「数理教育コース(中高教員)」を新たに設置する(学園報第91号にて詳報)。また同コースを含む5つの教員養成コースの名称に「(中高教員)」を追加。三重県小学校の合格者の占める割合が11年連続トップと小学校教員養成に定評のある本学だが、中学校・高等学校教諭の育成にも実績を持つことから、校種に応じたコースが新たに加わった。

新設・統合・名称変更 新生19コースが令和5年度にスタート

動画配信・VRツアーによる山室山参拝を実施



奥墓墓前祭

講話・VRツアー
ぜひご視聴ください
【期間】令和5年3月末まで



山室山奥墓パノラマツアー

コロナ禍のため過去2年間中止していた山室山参拝。明治28年以来、本居宣長翁の命日(11/5)に合わせて執り行われてきた本学の伝統行事を経験し宣長翁への理解を深めてほしいと、新たな形式で実施した。配信されたプログラムは大島信生教授による講話・献詠・墓前祭動画と本居宣長旧邸宅(鈴屋)のVRツアー、山室山奥墓360度パノラマツアーの映像。VR・パノラマツアーでは臨場感あふれる映像により実際に現地を訪れたような体験効果が得られた。視聴した学生からは「見応えのある盛りだくさんの内容で大変勉強になりました。卒業論文の総仕上げに取り組んでいる中、ご紹介された『うひ山ふみ』には勇気づけられました。4年生や「墓前祭を近くで見えたかったです。実際の空気感を感じるためにも現地を訪れてみたいです」(3年生)といった感想が聞かれた。



十理数系、はじまる。

教育学部にて、高の数学教員をめざす
「数理教育コース(中高教員)」開設
令和5年4月

未来へつなぐ日本のこころ
皇學館大学

中学校教諭一種免許状(数学) / 高等学校教諭一種免許状(数学)

令和5年度一般選抜入試にて数理教育コースを対象とした入学試験を実施します。詳しくはホームページをご覧ください。

Regional Collaboration 地域連携

地域社会研究会と茶業研究会が「全国まちづくりカレッジ in 香川」に参加



地域活動をした直島での記念写真

現代日本社会部の地域社会研究会と茶業研究会の学生メンバーが「全国まちづくりカレッジ in 香川」(9月23日~25日、主会場は香川大学)に参加した。

全国まちづくりカレッジ(通称まちカレ)とは大学教育と地域社会とを連動させ、まちづくり活動の学習や実践に結びつけようという大学関係者によるサミット。本学でも過去2回(平成24年、平成28年)開催している。

コロナ禍により2年間対面開催が見送られてきたが、香川大学の皆様のおかげもあり、今回は対面で開催されることになった。授業の関係で2日目からの参加になった本学の学生メンバーは、午前中、香川大学の各プロジェクトのフィールドワークに参加し、午後は「訪れる地域の資源をどう生かすか」とのテーマでディスカッションや発表を行った。3日目は直島で実際の地域活動を体験するなど、対面ならではの貴重な体験をすることができた。

参加を通じて地域活動への学びを深め、また、他大学との交流によって互いに視野を広げることができた



2日目午前に行われたフィールドワーク



発表会では活発な意見交換が行われた

今回の開催地は京都。今後のさらなる展開が楽しみだ。

笠原ゼミCチームが最優秀賞!

みえ学生ドライブスタンプラリーコンテスト2022



Cチームの西口さん(前列左から2人目)、服部花菜さん(後列左から1人目)、濱口未琴さん(同2人目)とBチームの亀田瑛重さん(前列左から3人目)、上田遥さん(後列左から3人目)、山田茉莉奈さん(同4人目)、中保教詞さん(同5人目)

学生による新たな視点でスタンプラリーを作成したいと、JAF(一般社団法人日本自動車連盟)三重支部が開催した「みえ学生ドライブスタンプラリーコンテスト2022」において本学現代日本社会学科・笠原正嗣教授のゼミCチームが最優秀賞を獲得した。

伊賀・名張を周遊 疲れを取りつつ「忍者」を満喫

本学では、令和2年から2年にわたりJAFと協働で地域の交通安全向上やイベントの企画・運営といったCLL活動「JAF地方創生プロジェクト」に取り組んできた。同CLL活動におけるJAF担当者より三重県下の高等教育機関を対象とした「みえ学生ドライブスタンプラ

リーコンテスト2022」への誘いを受け、もとより「観光による地域活性化」がゼミの研究テーマであった笠原ゼミの3年生から3チームが応募。見事、Cチームが提案した「忍者体験スタンプラリー」が最優秀賞、Bチームによる「志摩っ!海っ!」が優秀賞に輝いた。「車を使って一日で回ることができるとの条件を満たせるよう、県内各地の観光地をたくさん調べ考えた結果が優勝に

繋がりのうれしい」と喜びを語るのは、Cチームのリーダーを務めた西口颯真さんだ。利用者側の目線に立つて、旅の疲れを取り休憩できるスポットをふんだんに組み込んだ。最終審査前に提出したプレゼン動画の作成には高木瑛登さんが力を発揮。メンバー4人全員で協力し勝ち取った最優秀賞に、笠原教授も「授業外の時間に集まってはプラン作りや応募用動画の撮影をして頑張っていた」と誇う。「忍者体験スタンプラリー」は12月から実際に運用が始まる予定。地域活性の一助になるに違いない。

忍者体験スタンプラリーコース



伊賀流忍者博物館
忍者屋敷の観覧のほか手裏剣などの忍具を使った忍術実演ショーが人気。伊賀市上野丸之内117 TEL 0595-23-0311 ※写真出典 <https://www.igaueno.net/?p=94>



伊賀の国 大山田温泉さるびの
筋肉痛や疲労回復に効能高いナトリウム-炭酸水素塩・塩化物温泉。源泉かけ流しの湯で溜まった旅の疲れをゆつたりほくせる。伊賀市上阿波2953 TEL 0595-48-0268 ※写真出典 https://www.sato.premie.lg.jp/facility_single/?id=50



むらい萬香園
アクティビティで疲れた体を癒やせる茶屋。甘味が楽しめるイートインコーナーがあり、看板メニューは「忍者パフェ」。伊賀市上野小玉町3130 TEL 0595-21-1173 ※写真出典 <https://www.narakko.jp/muraibankoen/>



武家屋敷入交家住宅
寛政年間(1789年~1800年)に入交勘平が拝領した武家屋敷。三重県指定有形文化財で、当時の内装をそのままに残す。伊賀市上野相生町2828 TEL 0595-26-0313 ※写真出典 <https://www.360navi.com/24mie/02igaueno/13irimaji/>



忍者修行の里 赤目四十八滝
滝巡りのほか「赤目深谷源流冒険ツアー」や「忍者修行体験」など多彩なアクティビティを体験できる。名張市赤目町長坂671-1 TEL 0595-41-1180 ※写真出典 <https://www.akameonoseki.com/sightseeing/>



視野を広げ、切磋琢磨するゼミ生たち

本ゼミでは、社会科学教育に関する様々なテーマを扱っています。社会科学の研究は、歴史学や地理学といった社会科学に関わる様々な内容、教材開発や発問の工夫といった授業の方法、過去の優れた授業実践、地球温暖化やプラスチックごみ問題といった現代的課題など、研究分野は多岐にわたります。ゼミ生は、2年生と3年生の春学期において、文献や論文を読み込み、資料を作成してゼミの活動で大切にしていることは、現状認識と先行研究です。社会科学は、社会生活について問題を追及する教科です。従って、現状認識が欠かせません。ゼミ生には普段から新聞を読み、ニュースを聞き、現代社会で起きている様々な事象に関心を持つよう伝えられています。また、社会科学の研究には膨大な蓄積があります。ゼミで発表をする時に、このような先行研究にあたること

難しさと面白さに気づく

本ゼミでは、社会科学教育に関する様々なテーマを扱っています。社会科学の研究は、歴史学や地理学といった社会科学に関わる様々な内容、教材開発や発問の工夫といった授業の方法、過去の優れた授業実践、地球温暖化やプラスチックごみ問題といった現代的課題など、研究分野は多岐にわたります。ゼミ生は、2年生と3年生の春学期において、文献や論文を読み込み、資料を作成してゼミの活動で大切にしていることは、現状認識と先行研究です。社会科学は、社会生活について問題を追及する教科です。従って、現状認識が欠かせません。ゼミ生には普段から新聞を読み、ニュースを聞き、現代社会で起きている様々な事象に関心を持つよう伝えられています。また、社会科学の研究には膨大な蓄積があります。ゼミで発表をする時に、このような先行研究にあたること

社会科学の授業をつくる 難しさと面白さに気づく

研究室 探訪 vol.26

社会科学教育学ゼミ
【指導】
萩原浩司 助教
教育学科



欠かせません。この「現状認識と先行研究」を同時にクリアするためゼミ生に勧められているのが「1週間に1冊本を読む」です。ゼミでは読書記録をつけながら、皆で競い合って本を読んでいます。1週間に1冊読むと、1カ月で4冊、1年間で約50冊になります。ゼミに入ってから卒業までの2年半では、125冊の本が読めることになりました。「私は125冊も読んだんだ」という自信をもって教壇に立つてほしいと思っています。

ゼミではこの他にも、SDGsに関わる体験活動、外部講師の先生によるエネルギー教育に関する講演会なども行っています。様々な活動を通して、社会科学の授業をつくる難しさと面白さに気づき、子どもたちが「明日も社会の勉強がしたい」と言ってくれるような授業づくりができる力を、ゼミ生には身に付けてほしいと思っています。

Culture & Sports カルチャー&スポーツ

皇學館高校・銃剣道部が 国体4位入賞

第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」が10月1日～11日の日程で開催され、皇學館高校銃剣道部が4位に入賞する快挙を成し遂げた(本紙8面参照)。国体出場者は以下の通り。

銃剣道部	今川大樹(2年7組) 大川優雅(2年7組) 伊藤洋一(2年10組)
バドミントン部	吉居要(3年4組) 梅本りずむ(3年6組) 吉居鼓(1年3組)
陸上競技部	浅井琥桃(1年3組)▶本紙8面参照

迫力の演奏と演出に会場沸く 皇學館高校吹奏楽部が 第15回定期演奏会を開催



9月30日、三重県文化会館大ホールにて皇學館高校吹奏楽部第15回定期演奏会を開催した。第1部は「プロローグ・ワン」のファンファーレで幕を開け、コンクール演奏曲、全部員による「ゲール・フォース」へと続き、迫力ある演奏で会場を沸かせた。第2部は吹奏楽と日本舞踊の融合である吹奏楽舞踊を披露。迫真の演出で聴衆を魅了すると、ディーパープブル・メドレーから始まる第3部へ。「なにわ男子」ならぬ「皇學館男子」で編成した「初心LOVE」、3年生演出のアニメメドレー、「マツケンサンバ」で会場の盛り上がりは最高潮に達した。感極まった部長挨拶では多くの部員が目頭を熱くし、感動に包まれたフィナーレを迎えた。



3名が優良生徒表彰

10月15日、津市のアスト津において第58回三重県私学大会が開催され、皇學館高等学校3年の大川慶也さん(前校友会総務委員長)と石谷実佐さん(前校友会総務副委員長)、皇學館中学3年の福原梨理衣さん(校友会総務委員長)の3名が優良生徒として表彰を受けた。大川さんは「学校を少しでもよくしたいという気持ちだけで校友会の活動に取り組みましたが、それがこういう形で評価を受け、受賞できたことは本当に嬉しい」と話し、石谷さんは「私の力だけでなく、私の周りの友だちや先生方の協力とサポートがあったからこそ受賞できたのだと思います。支えてくれたみなさんに感謝します」、福原さんは「自分が受賞できるとは思ってなかったので驚きました。今後も表彰を受けた生徒として勉強やクラブ活動を頑張りたい」と感想を語った。3人の今後の成長が楽しみである。



写真は左から石谷さん、大川さん、福原さん



4年ぶりに優勝した東海地区大学野球秋季選手権大会



10月30日にダイムスタジアム伊勢で行われた第53回明治神宮大会代表決定戦を兼ねた第18回東海・北陸・愛知三連盟王座決定戦決勝。平成27年以來、2度目の「神宮」をめざす本学硬式野球部は名城大に1-3で敗れ、準優勝となった。東海地区大学野球秋季選手権大会で4年ぶり2回目の優勝を果たし、掴み取った王座決定戦への切符。同決定戦初日の29日には北陸1位の金沢学院大を相手に北川寿頼選手(コミ4)が好投し6-5と競

り勝ち、臨んだ決勝の舞台だった。1回裏に井田翔斗選手(教育3)が放ったセンター前へのタイムリーヒットで1点を先制するも、2回表で名城大が2点を入れ逆転。最後まであきらめず粘り強さを見せたが9回表に追加点を許し、涙を飲んだ。「選手は本当によく戦ってくれた。相手の固い守りを崩すことができなかった」と労いの言葉とともに大会を振り返る森本進監督。岡田一晟主将(教育3)は「多くの人に応援されプレ

大学硬式野球部が準V 第18回東海・北陸・愛知三連盟王座決定戦



「出場していない選手も心一つに戦えるのがいい」と高野選手

10月1日、2日に日本武道館において全日本学生柔道体重別選手権大会が開催され、本学から8名が出場。古豪強豪大学を相手に3回戦に駒を進めた選手が3名、2回戦進出が3名、惜しくも1回戦負けとなったのが2名と健闘した。ベスト16に勝ち進んだ高野当選手は「一人ひとりが粘り強く、部一丸となって皇學館ら

ベスト16が3名と健闘 全日本学生柔道体重別選手権大会

2022年度 全日本学生柔道体重別選手権大会結果 (男子第41回・個人戦)

66kg級	清水佑晟(現日3)	1回戦敗退
73kg級	高野当(教育4)	3回戦進出
	山村隆斗(教育3)	2回戦進出
90kg級	柏谷歩槻(現日2)	3回戦進出
	衛藤力也(現日4)	2回戦進出
100kg級	南大介(現日3)	3回戦進出
100kg超級	南大志(現日1)	2回戦進出
	島健輔(現日3)	1回戦敗退

2022年度 全日本学生柔道体重別団体優勝大会(男子24回)

2回戦	皇學館大学 1-3	山梨学院大学
-----	-----------	--------

しく戦えたことはよかった」としながらも、「僅差で負ける場面が増えてくる。競り合った時、勝ち切れる力を付けなければ」と悔しさを滲ませた。課題克服のため一本取りの乱取り稽古を増やしていると話し、雪辱を誓った。また10月15日、16日に兵庫県尼崎市のベイコム総合体育館で実施された全日本学生柔道体重別団体優勝大会に本学はシード校として2回戦から出場。善戦むなしく山梨学院大学に1-3で敗れた。各大会結果は右表の通り。

リレーエッセイ

私の学生時代



皇學館中学校・高等学校校長
芝崎 俊也
皇學館大学文学部国史学科卒業

私を培い、育んでくれた皇學館
本年4月に校長職を拝命し、創立百周年記念講堂での最初の学校行事である入学式でステージに立った時、あらためてこの場に立とうとは大学時代には想像もつかなかった。私は幼い頃、早くに亡くした日本史好きの父から、昔鳥羽には九鬼という殿様がいたと聞かされ、意味の分からぬまま幼心にお菓子のクッキーを思い描いていたことが、日本史を意識した最初の記憶である。以来、日本史への興味関心が高く、高校時代に司馬遼太郎の作品に魅了された。一方、周囲が進学先の話をするなか家庭事情から進学を諦めることも視野に入れていたが、高校3年生の担任の先生が日本史の教科担当であったこともあり、自宅から通学でき歴史学を学べる皇學館大学を先生から薦めていただいた。大学では雷に打たれたような衝撃を受けた。「歴史ってこんなにも面白いんだ」。国史学科の専門講義では先生方の一言一句を聞き漏らすまいとの意気込みで臨んでいた。また、自分を鍛え直したいとの思いが吟道部へとつながった。日々の鍛錬など寮生の同期生は私より厳しい状況であったが、自由を校風としていた高校から入部した私にとって十分な厳しさであった。関東や中部、関西等の大学吟詠部から馳せ参じてくれた同志の熱気溢れるなかでの吟道部の発表大会で完成したばかりの創立百周年記念講堂のステージに立ったのが40年程前、冒頭の感慨へとつながる。この間、国史学科の素晴らしい恩師や吟道部の先輩諸氏から多くのご指導をいただき、ご薫陶を受けたことが、新採で赴任した県立高校で硬式野球部の立て直しに邁進できた力となった。また、県教育委員会等で18年間教育行政に携わるなか、8回の異動に対応できた力にもつながるなど、大学での日々は、その後の私に何事にも挑んでいく力を培ってくれたと心から感謝している。現在、教育を取り巻く状況は厳しさを増すなかではあるが、大学時代にいただいたご恩に少しでも報いることができるよう、これまでに培った知見や経験を活かし、皇學館中学校・高等学校の発展に寄与していきたいと心を新たにしている。

「家庭に感謝する日」の行事を開催

教育勅語の「父母ニ孝ニ…」とある趣旨に基づき、勅語渙発の10月30日を「父母の日」と定め、私たちが育ててくれた両親、先祖に感謝の意を表す日としている。



本年10月29日、昭和41年から本校の恒例行事となっている教育勅語の誦読を行い、また家庭への感謝の気持ちを綴った作文の提出があった。次に作品の一部(抜粋)を紹介する。

家庭に支えてきてもらった16年間 高校1年8組 森 環

今までたくさんの経験を積んできた中で、今日があるのは、その経験を支えてきた家庭があるからだと思います。家庭は木の苗のようなものであり、その中に僕がいて、経験の一つひとつが枝や根や葉であり、それが増えて伸びて、いつかは大樹になり、大樹になっても木の苗の何かは残っていて。大きな大樹も初めは小さな苗ですが、木の苗がなければ大樹は出来ないように、初めに家庭があり、家庭がなければ今の自分、これからの自分はいないと考えます。

まだ、16年しか生きておらず、わからないことが多い中で、教えてもらったり、一緒に考えたり、手伝ってくれたり……家族の協力のおかげで、できることが一つずつ増えていきました。僕には、物心ついた時からの記憶しか

ありませんが、思い返せば、その前からずっとこの16年間支えてきてくれ、これから先の長い人生を生きていく基盤を、一緒に築いてきてくれた家族。ともに喜んでくれ、心配してくれ、そして最後は、僕を信じて託してくれ、僕の好きなようにさせてくれる。世界中でただ1人の僕が、誰よりも幸せでいられる場所が家庭である。走りまわれるほど広くはない。家族しかいない場所。しかし、そこには大きなもの、多くのものが詰まっている。疲れた日も、悲しい日も、苦しい日も、楽しい日も、笑顔で優しく迎えてくれる家族がいる。それは、今まで365日が16回繰り返されて、そしてこれからも変わらず続いていく。家庭に感謝する日を機に、改めて感謝したいと思います。

「私の一番の宝物」 中学校1年A組 坂東 愛心

「私の一番の宝物」。私の母はいつも私にそんな言葉をかけてくれます。私が友達関係で悩み、泣いていたときも「私の一番の宝物」と言って安心させてくれました。初めて自分一人で料理を作れたときも「さすが私の一番の宝物」と言ってほめてくれました。私はいつもこの特別な魔法の言葉に安心させられたり、はげまされたりしてきました。ほかの家族にもきくとこんな魔法の言葉があるのだらうと思ってしまうほど、私にとっては特別な言葉でした。

ある日、私は、私の弟となる赤ちゃんが母のおなかの中にいることを知りました。私はその弟をすぐにでも抱きたかったし、いっしょに遊びたくてたまりませんでした。でも、私の頭のかたすみには、ふと「弟が生まれてきたら、私は母の『一番の宝物』ではなくなってしまうのではないか」という考えが浮かび、心配や悲しみ、さびしさを感じるようになりました。私の妹も、

弟が生まれる前ごろから少しおとなしくなった気がしました。しかし、実際に弟が誕生すると、もちろんいてくれてよかったと思うことがたくさんあります。たとえば、母がこれまで以上に元気になったり、家族に明るさが増したりする場面が多くなったことです。そんな楽しい生活を送っていると、あの、頭のかたすみにあつたさびしくて、悲しくて心配するような気持ちは、いつしかすっかり無くなっていました。

母は、私にすごく幸せで楽しい生活を送らせてくれます。以前を振り返ってみると、私は恥ずかしいことで悩んでいたんだなといまは思います。これまでの楽しかった生活を思い出しながら、これからはその分、母に恩返しをしたいと思います。そして、将来、母のようなお母さんになれるように努力し、できれば、自分の子供にも受け継いでいてもらえるといいなと思います。

1374名が来場し盛況を博す

第1・2回オープンスクール

本年度のオープンスクールは、第1回を9月3日、4日に記念講堂で、第2回を10月9日に高校体育館で開催した。合わせて1374名(中学生930名、保護者および中学校教員444名)の参加者を迎え、大盛況のうちに幕を閉じた。プログラムは、校長挨拶、校友会生徒代表挨拶、校友会生徒による学校紹介、入試説明、吹奏楽部による歓迎コンサート(第1回はダンス部も参加)、入試問題解説(第2回のみ)。参加した中学生と保護者は、学校説明や入試問題の解説に熱心聞き入り、歓迎コンサートでは楽しそうな表情が印象的だった。



上/特進コースの新たな取り組みを説明
下/クラブ活動を説明する生徒

3年ぶりの全校による体育大会を開催

コロナ禍で中止や学年別に実施されていた体育大会が10月24日、3年ぶりに3学年合同で開催された。当日はクラス、学年の別なく応援の声飛び交い、大いに盛り上がった。



午前中のみ開催。綱引きやリレーのほか、背中渡りリレー(2年)や大縄跳び(3年)も行われた

20人リレー		
優勝	2年5組	4分49秒4
準優勝	3年9組	4分49秒6
第3位	3年5組	4分50秒1
バンブーレース		
優勝	1年6組	
準優勝	1年9・10組	
第3位	1年5組	
背中渡りリレー		
優勝	2年5組	
準優勝	2年9・10組	
第3位	2年6組	
大縄跳び		
優勝	3年3組	
準優勝	3年7組	
第3位	3年6組	

今までの時間を取り戻すかのよう

校友会総務委員長 大津 拓己(2年3組)

今年度は3年ぶりの1、2、3年生合同での体育大会が行われました。私自身、他学年合同での体育大会は初めてであり、それぞれの学年が1位をめざして選手を応援したり励ましている姿を見て、今まで規模縮小で足りなかった時間を取り戻しているかのように感じました。学年競技では同じ学年の人と「自分の学年が一番だ!」という勢いで、全力でこの体育大会を楽しんで勝つという思いが伝わってきました。そして全体競技では、普段はあまり関わりがなかったり上下の関係があったりする中、自分のクラスの勝利のために一致団結している姿に感動しました。とくにリレーでは1、2、3年生が入り混じる白熱した戦いを見ることができました。思い通りの結果が出せたクラスもそうでなかったクラスも最後にはそれぞれクラスを称えあって拍手を送っており、高校時代にしか体験できない感動を味わえました。

五感で学んだ「熊野宿泊研修」

実 体験により知識・見聞を深めようと、11月4日、5日の2日間、2年生を対象に「熊野宿泊研修」が実施された。現地ではアマゴつかみや間伐体験、花火鑑賞、みかん狩りなどプロの方々からの講話とともに多彩なアクティビティが行われ、充実した研修となった。



獲ったアマゴは焼いてお昼ご飯に

七里御浜で獅子岩を見上げながら熊野の風土や歴史の話に耳を傾けた

熊野の自然、人の温かさを身体で感じた

2年A組 増田 輝

今日は、中学生になって初めての宿泊研修でした。前々から楽しみにしていたのに、前日の夜に足を怪我して、鎮痛剤を飲んで出発しました。長く歩くことは出来なかったため、間伐体験や花火鑑賞には車や車いすで移動させてもらい、先生方に大変お世話をかけました。友達にも心配や迷惑をかけました。けれど、みんな親切に介助してくれたので、本当に感謝しています。

花の窟神社や獅子岩に熊野の自然の雄大さを感じ、鬼ヶ城の方から海に向かって発射された花火は海に反射して広大でした。翌日、朝日の差す七里御浜は果てなく、打ち寄せる白い波が、まるで映画みたいでした。みかん畑では、小ぶりで色のよいみかんを探し求め、食べ過ぎてしまいました。

自分はこの研修で、熊野の自然の大きさや、人の温かさを、身体で感じ取りました。

先人の工夫、知恵が詰まった間伐

2年A組 斎藤 華

私が一番印象に残ったのは間伐体験です。斜めに切り込みを入れてから後ろを切り込んで倒す工夫や間伐木の選択など、様々なやり方で間伐することで、大きな木が育つのを助けていると知りました。のこぎり一つで檜を伐採し、ミシミシミシと音を立てて木が倒れた時は、何ともいえない気持ちになりました。

また、子どもの時から花火が苦手だった私が今回の花火鑑賞を機に、あんなに近くで怖さを感じずに見ることができたのがとても不思議で、嬉しいです。15分が短く感じられ、2時間でも見ていたかったです。

間伐体験やアマゴつかみなど普段できないことをたくさんでき、内容がぎっしり詰まったハードな2日間でした。そんな中、班のみんなと協力したり助け合ったり、今までより仲良くなったと思います。この貴重な体験をこれからに繋げていきたいと思っています。

皇學館大学コミュニケーション学科主催
第4回 英語発信力コンテスト
 開催のお知らせ

英語による動画作品募集中
 実践的な語学・発信力を磨くチャンス!

テーマ
 自由。ただし学生による発表として適切なものに限りませう。

アイデア例
 スピーチ、劇、翻訳、授業でのプレゼンテーション、模擬授業、テレビ番組、学会発表など。

作品規定
 作品時間は個人・団体共に3～30分。動画はMOVまたはMP4の形式で作成し、一貫した内容になるように適宜編集してください。著作権等には留意してください。

応募資格
 本学在学学生(留学生、大学院生、専攻科生を含む)

応募期間
12月9日(金)～16日(金)

応募方法
 以下の3点を応募期間中に指定された方法で提出すること。

- ① **コンテストの応募用紙**：所定の応募用紙に必要事項を記入し、コミュニケーション学科助手に提出。
- ② **動画データ**：データをUSBメモリー等に保存し、コミュニケーション学科助手に提出。
- ③ **動画データの原稿**：原稿(詳細は別紙要項を参照)をWordファイル形式またはPDFファイル形式でUSBメモリーに保存し、コミュニケーション学科助手に提出。

表彰
 個人部門、団体部門からそれぞれ、最優秀賞(学長表彰)1名ずつ、優秀賞2名ずつ、特別賞2名ずつ(賞状と図書カードを贈呈)

結果発表
 令和5年2月～3月頃に大学ホームページで審査結果を公開予定

問い合わせ
皇學館大学コミュニケーション学科
 〒516-8555 伊勢市神田久志本町1704番地
 E-mail commu@kogakkan-u.ac.jp

皇學館学園報
電子媒体(PDF)への全面移行について

日頃より皇學館学園報をご愛読いただきありがとうございます。

学校法人皇學館では平成16年9月10日に皇學館学園報第1号を発行して以来、印刷物(紙媒体)を皆さまに届けてまいりました。またホームページ上に「学園報アーカイブ」として電子媒体(PDF)を掲載し(下記のコードからアクセスできます)、紙・電子、両媒体で閲覧できる環境を整えてまいりましたが、読者層の広がりや情報端末の多様化、資源節減の動きに伴い、第95号(令和5年5月号)より電子媒体(PDF)配信に一本化することとなりました。移行により、これまで以上にタイムリーな情報発信・ご提供に努めますので、引き続きご愛読のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



発行・編集 ● **学校法人皇學館 企画部**
 TEL.0596-22-6496・8600

3年ぶりの対面開催!

第61回 倉陵祭

テーマ ● 勇躍 ～皆で創りあげるもの～ 10/29(土)～30(日)

アーティストライブが復活
 ビンゴ大会等盛り上がる企画も

実行委員長 中野 瞳 (国文2年)



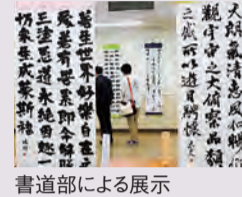
私たち12人の実行委員は全員対面での倉陵祭を経験していません。そこで、残っていた資料やパンフレットを読み込み、どうしたら皆さんに3年ぶりの対面開催を最大限楽しんでもらえるかを考えました。コロナ感染拡大防止のために飲食を伴う模擬店は中止しましたが、アーティストライブを3年ぶりに開催し、盛り上がるイベントとしてビンゴ大会を企画しました。コロナ禍前の雰囲気少しでも近付けられたように思います。また団体の展示や発表では部活動の成果を広くアピールでき、1年生は入学当初の新入生歓迎会を十分に体験できなかったため、各団体の活動をゆっくり見学できるよい機会になったのではないのでしょうか。

実行委員による準備では、「第7波」の中でメール等でのやり取りが主となり、対面による全体ミーティングを一度も行うことができないという苦労もありました。皆で一つのことを創り上げるには「目標の共有」が最も大切であることを学びました。



祭典

こども広場局による公演



書道部による展示



アーティストライブ wacciによる公演



よさこい部「雅」による公演



考古学研究会による展示

第60回 皇高祭

テーマ ● Like Boys and Girls ～楽しもう皇高祭～ 9/21(水)～22(木)

3年ぶりに本来に近い形で実施

校友会総務副委員長 室田 真里 (2年2組)

本年度の皇高祭は3年ぶりに本来に近い形で行うことができました。1日目のシンフォニアテクノロジー響ホール伊勢での芸術鑑賞会、2日目の祭典、クラス展示、校友会企画、体育館での有志発表など昨年とは違った形で実施できたと思います。

クラス展示では「SDGs」をテーマに、限られた予算の中でさまざまな企画を考えました。その結果、「SDGs」を楽しんで学ぶことができ、とても良いものとなりました。また、有志発表では人数を制限しての開催でしたが体育館で行うことができました。歌やバンド、ダンスなどいろいろな出し物がありました。多くの方が来てくれたおかげでとても盛り上がりました。有志発表と並行してスタンプラリーを行いました。計画したミニゲームが思ったより難しく、成功者がなかなか出なかったのが苦労しましたが、教頭先生を含むたくさんの方に参加していただきました。反省点も多くありますが、次の皇高祭に生かしていきたいと思っています。



尾張一座による太鼓の指導



2年1組のクラス展示



校友会主催のクイズ大会



書道部、写真部、文芸部の展示コーナー

第43回 皇中祭

テーマ ● For One Purpose ～空に夢を描こう～ 10/22(土)～23(日)

大変だったけれど、よい経験に

校友会総務委員長 福原 梨理衣 (3年A組)

今回の皇中祭は、コロナ禍の中でも本来に近い形で開催することができました。実際に来校された方に説明したり、文化祭ならではの雰囲気を感じたりすることができたので、よかったです。今回の皇中祭を通して学んだのは、その時その時の状況をきちんと把握して、対応していくことがいかに大事かということです。もちろん皇中祭当日まで自分たちなりにしっかり準備はしてきたつもりでしたが、準備期間が比較的少なかったりしたせいか、やはり本番を前にしてみると、思わぬトラブルもいくつかありました。私は校友会本部役員を2年にわたり務めてきていますが、どうすればよいのか戸惑いながら、臨機応変に対処しなければなりません。

クラスの友達と頑張ったかきがあり、保護者の方々に褒められて達成感を感じたクラス展示、惜しくも優勝は逃したものの、クラスメイトで一致協力し、練習の成果を発揮できた合唱コンクール…。一つひとつ挙げれば、どれも大変だったけれど、本当にとってもよい経験になりました。



Book Review Battleでクラス優勝を獲得した3年生の石田奈々さん



熱のこもった公演「伊勢津組」のステージ



合唱コンクールで金賞に輝いた2年A組



例年のにぎわいを取り戻したクラス展示

アクティブ・スチューデント Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

新開悠太郎^(教育4)さんが 2級・サッカー審判員として活躍

1試合で走る距離は選手以上ともいわれるサッカーの審判員。1～4級のカテゴリーのうち、全国で3700名ほどしかいない2級の審判員資格を取得し、活躍しているのが新開悠太郎さん(教育4)だ。「走りながら試合の展開を予測し、良いポジションを見つけ、説得力のある判定をすることは審判員として最も基礎的かつ難しい部分」と苦労を明かしつつ、「素晴らしいプレーや振る舞いを間近で見られることが醍醐味」とその魅力を語る。2級審判員は地域サッカー協会が主催する試合を担当することができるため、現在、東海地方を中心に月に5、6日審判員を務める新開さん。活動を通して日常生活においてもさまざまなことを俯瞰的に対処できるようになったと言いつつ、また、審判員の技術を磨くためにサッカー観(サッカーへの理解)の向上や状況に応じたコミュニケーション方法を普段から意識していると話した。



サッカー選手としてルールをよく知りたかったのが審判員になったきっかけ



高校サッカーの審判をする新開さん

卒業後は小学校の教壇に立つ。「今後は教員として働きながら、審判員としてJリーグの舞台に立つことを目標に、どちらも頑張っていきたい。その姿勢と行動を通して、子どもたちに夢を持つこと、努力の大切さを感じてもらえるよう努めていきます」。

卒業後は小学校の教壇に立つ。「今後は教員として働きながら、審判員としてJリーグの舞台に立つことを目標に、どちらも頑張っていきたい。その姿勢と行動を通して、子どもたちに夢を持つこと、努力の大切さを感じてもらえるよう努めていきます」。

サーファー兼海士として 志摩市の活性化をめざす濱村有留波^(コミ3)さん

大好きなふるさと・志摩をもっと盛り上げたい——そんな思いから、サーファー兼海士として活動している濱村有留波さん(コミ3)。父親の影響で小学1年のときからサーフィンを始め、小学3年の頃は週に3～5日素潜り漁に出ていたという。今年8月に宮崎県で開催された全日本サーフィン選手権大会に兄の海斗さんとともに出場するなど、地元では兄弟サーファー・海士として知られた存在だ。今年5月には仲間と一緒に「受け継がれてきた町の伝統文化を守る、持続可能な『海の家』を作りたい!」プロジェクトを立ち上げ、クラウドファンディングを募るなど“行動力”が強み。これらの活動を通して「年代を問わず人脈が広がり、企画から資金の管理、集客まですべてを一から学ぶ貴重な経験になった」と話し、「何ごとでも意外とうまくいくもので、失敗しても挑戦することに意味があると思っている」とどこまでもポジティブだ。



いつも練習している地元国府の白浜にて

2年前からインターンとして次世代の人材育成や地場産業へのテクノロジー支援に取り組む地元社団法人で働いている。卒業後も、海をフィールドにした活動を通して地域の発展に尽くしたいと意気込む濱村さん。夢は膨らむばかりだ。

皇學館高校銃剣道部が いちご一会とちぎ国体で4位

10月6日から10日にかけて栃木県で行われた第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」銃剣道少年男子団体が皇學館高校銃剣道部が4位に入賞する快挙を成し遂げた。

「部としては過去最高の結果で素直にうれしいが、達成感よりも悔しさが残り、満足はしていない」と語るのは主将で先鋒を担った伊藤洋一さんだ。中堅の今川大樹さんは「これまでの練習が実を結び、獲得した順位」、大将の大川優雅さんは「まさか入賞するなんてという驚きと、今まで頑張ってきたよかったという気持ち」と喜びを語った。

今大会で優勝した栃木県を含む強豪と戦ったことで、多くの学びを得たと語る3人。技の練度や封じ方、駆け引き、揺るぎない基礎力等の技術・身体的なものから、緊張が漂う場面での心の持ちようといった精神的なものまで、あらゆるものが勉強になったという。伊藤さん、今川さん、大川さんはそれぞれ「誰が見ても一本とわかる剣を繰り出す」「剣と体の動きを連動させる」「精神的な不安定さを解消する」と課題克服を誓い、伊藤さんはさらに「この大会で学んだことを体系化・一般化して同期や後輩と共有し、より強い部になりたい」と主将ならではの視点で今後の目標を語った。全国の大舞台で培った経験を糧に、さらなる高みをめざす。



左から伊藤さん、今川さん、大川さん。1回戦は茨城県を相手に3-0で快勝、青森県と戦った2回戦は2-1で突破。栃木県に0-3で敗れ準決勝敗退となった

走高跳・浅井琥桃^(高1)さんが ジュニアオリンピックカップU16陸上大会で優勝

JOCジュニアオリンピックカップ第53回U16陸上大会女子「走高跳」で皇學館高校の浅井琥桃さん(高1)が1m64を跳び優勝を果たした。

「とてもうれしい。一番初めに1本落としてしまったが、そこで気落ちせず前向きに頑張って跳んだことがよかった」と喜びをかみしめる浅井さん。調子が悪くても「優勝を決めた姿やここで自己ベストを更新したらカッコいいなど想像を



喜びの表情を見せる浅井さん

膨らませて、モチベーションを高める」と浅井さんならではの気持ちの切り替え方を明かす。記録が伸びないときは「違う種目を練習して走高跳をしたくなるまで待つ」と、あくまでも無理をしないのが「琥桃流」だ。

小学生のとき、地区大会の走高跳で7位に入賞したことがきっかけとなり、中学校で陸上部へ。「人によって跳び方が違い、見ていて飽きない種目」とその魅力を語る。今後の目標について、「走高跳は1m70以上を跳び自己ベストを更新することと、走高跳・三段跳・棒高跳の3種目でインターハイに行くこと」ときっぱり語る浅井さん。さらなる飛躍を見せてくれるに違いない。



U18「三段跳」で6位入賞の中山竣介さん(高2)と一緒に